

一

問一 目標 息苦 逆 耕

問二 自分たちが前時代のようにには必要とされなくなったことに気づき、それでも社会の中での主導権を持ち続けようと、存在意義を示すためだけの仕事を無駄であつてもおこない続けた点。

問三 東京の現場

都市や建築の未来を考えることなく、コストとスケジュールのみを重視し、リアリティも生命もない建築を作らざるを得なかった所。

禱原の現場

職人と直に話すことで建築という行為の本質に触れ、自由な発想で大地や土地とつながった本来の建築ができた所。

二

問一 有名なカメラマンを父にもつ家庭事情と共に、国語や美術の才能、奔放なのに不良ではないところに加え、学校をさぼって海へいくという、自分にはできない行動をとるところ。

問二

本心では学校をさぼることに抵抗を感じているのに、朱里の提案を断って関係性を崩すことを恐れ、自分と一緒に海へ行くことを喜んでる朱里に同調したふりをしたから。

問三

校則をやぶる勇気のなかった自分に幻滅したのではないかと思うと、自分にだけ気を許しているような朱里のふるまいも本心ではないように見えてきたということ。

問四

朱里がほしがっていたはずの絵の具のことも忘れて瑠璃子と楽しく交流するのを見て、自分という存在も忘れられていくように感じ、さびしくやりきれない気持ちになつている。